

【田原市博物館 テーマ展】

# 琢華堂 一椿椿山の画塾一

令和6年6月1日(土)～7月21日(日)

「琢華堂」とは、椿椿山の画塾のことです。椿山には373名もの門下生がおり、渡辺小華(1885～1887)や野口幽谷(1827～1898)も椿山の門下生でした。本展では、椿山とその弟子たちの作品を紹介します。

展示室

特別展示室

指定	作者	作品名	制作年	材質	形状	備考
	わたなべかざん 渡辺華山	しせんしゆくじゆづ 芝仙祝寿図	天保4(1833)年	絹本着色	掛幅	
	渡辺華山	とうかじやくほうづ 藤花雀蜂図	天保10(1839)年	絹本着色	掛幅	
	渡辺華山	じゆいんひうづ 樹陰避雨図	江戸時代・文政年間	紙本淡彩	掛幅	
	つばき にざん 椿 二山	つばきちんざんぞう 椿椿山像	明治時代	絹本着色	掛幅	
重文	つばき ちんざん 椿 椿山	しょうしゅうぞくおよ しょうかん 小集図録及び書簡	天保11(1840)年	紙本着色	掛幅	展示期間 6月1日(土)～6月30日(日)
市指	椿 椿山	たくかどうもんせき 琢華堂門籍	文政7(1824) ～嘉永6(1853)年	紙本墨書	冊子	
市指		つばきちんざんしょういん 椿椿山使用印	江戸時代後期			
		たくかどうがふ 琢華堂画譜	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	画帖	
		たくかどうがふしよかだいえい 琢華堂画譜諸家題詠	明治36(1903)年	紙本墨書	画帖	
	椿 椿山	よしわらていさいぞう 吉村貞斎像	天保3(1832)年	絹本着色	掛幅	展示期間 7月2日(火)～7月21日(日)
	椿 椿山	でんひらやましりょうぞう 伝平山子龍像	天保4(1833)年	絹本着色	掛幅	
	椿 椿山	かんこうず (さいかんさんゆうず) 寒香図(歳寒三友図)	嘉永3(1850)年	絹本淡彩	掛幅	
	つばきしたし 椿 愛 編集	ちんざんいんぷ 椿山印譜	明治16(1883)年		版本	
	椿 椿山	たくかどうにちろく 琢華堂日録	天保4(1833)年	紙本墨書	捲り	
	椿 椿山	たくかどうにちろく 琢華堂日録	文政元(1818)年	紙本墨書	捲り	
	椿 椿山	きゅうあんまんろく 休庵漫録	江戸時代後期	紙本墨書	捲り	
	わたなべしょうか 渡辺小華	かきんじゆにじょう 花禽十二帖	明治時代	絹本着色	画帖	
	渡辺小華	えんそうめんかしやせいづ 煙草綿花写生図	明治時代前期	絹本着色	掛幅	
	渡辺小華	じゆてんはくろくづ 受天柏緑図	嘉永5(1852)年	紙本淡彩	掛幅	
	わたなべじよざん 渡辺如山	ぼいかちようしゆんづ 梅華長春図	江戸時代後期	絹本着色	掛幅	明治9年渡辺小華賛
	やまもときんこく 山本栞谷	さいかんせんびんづ 歳寒仙品図	天保13(1842)年	絹本着色	掛幅	
	山本栞谷	こうしかんぼくづ 高士觀瀑図	慶応3(1867)年	絹本墨画淡彩	掛幅	
	のぐちゆうこく 野口幽谷	たくかどうもんせき 琢華堂門蹟	明治時代	紙本墨書	額	
	野口幽谷	さいかんせんゆう 歳寒仙友	明治12(1879)年	絹本着色	掛幅	
	野口幽谷	ちくりんぐんじやく 竹林群雀	明治31(1898)年	紙本墨画淡彩	掛幅	

重文＝重要文化財 市指＝田原市指定文化財 全て当館所蔵

田原市博物館

## <作者紹介>

渡辺華山 寛政5(1793)年～天保12(1841)年

渡辺定通の長男として、江戸に生まれました。はじめ平山文鏡に師事し、白川芝山、金子金陵、谷文晁らに絵を習います。華山は写実的な描写にこだわりました。特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を巧みに使い、独自の画風を確立しました。また重要文化財「一掃百態図」(当館蔵)など、当時の文化や風俗を伝える資料が残っています。

椿 椿山 享和元(1801)年～嘉永7(1854)年

はじめ金子金陵に師事しました。金陵が亡くなった後、同じく金陵の門下であった渡辺華山の弟子になります。蚕社の獄で華山が逮捕された際は、その救済に奔走しました。華山没後は、華山の家族を献身的に支えました。花鳥画を得意とし、輪郭線を描かない方法で花卉図などを多く制作しました。

渡辺小華 天保6(1835)年～明治20(1887)年

渡辺華山の次男です。小華が7歳の時に、父である華山が亡くなりました。その後、椿椿山の画塾に入門し、花鳥画の技法を習います。22歳の時、兄の立の死後、渡辺家の家督を継ぎ、30歳で田原藩の家老に就きました。明治維新後、内国勸業博覧会への出品や明治宮殿の杉戸絵など制作しました。

渡辺如山 文化13(1816)年～天保8(1837)年

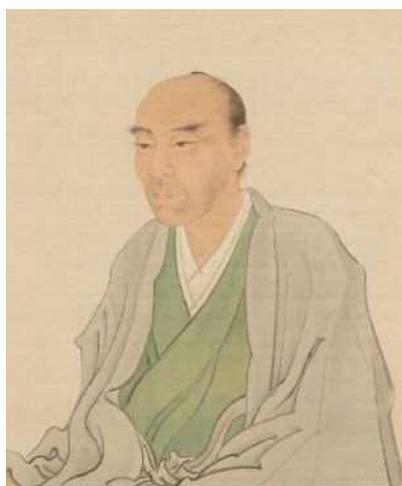
渡辺華山の弟です。学問や書画に優れ、将来を期待されましたが、わずか21歳で亡くなりました。若くして亡くなったため、作品は多く残っていません。14歳から椿椿山に師事し、天保7(1836)年刊行の『江戸現在広益諸家人名録』に掲載され、名を馳せていたことが窺われます。

山本栞谷 文化8(1811)年～明治6(1873)年

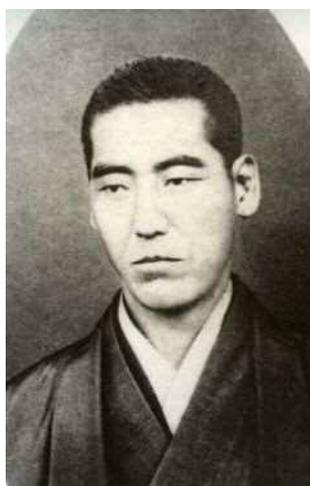
石見国津和野(現在の島根県津和野市)で生まれました。はじめ津和野藩家老の多胡逸齋に絵を習いました。江戸へ出府後、渡辺華山の弟子になり、天保11(1840)年には椿椿山へ入門します。嘉永6(1853)年、津和野藩絵師になりました。山水画や人物画を得意としました。

野口幽谷 文政10(1827)年～明治31(1898)年

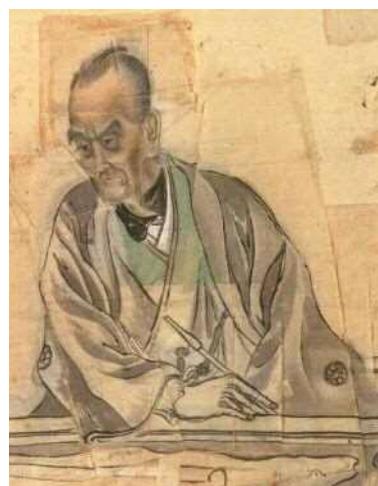
大工の棟梁源四郎の次男として江戸に生まれました。嘉永3(1850)年、椿椿山に師事し、花鳥画を習いました。明治5(1872)年のウィーン万国博覧会や明治10年の第1回内国勸業博覧会に出品し、画技を認められました。明治23年、橋本雅邦らとともに帝室技芸員に任命されました。弟子に椿山の孫である椿二山や松林桂月などがいます。



重要文化財 椿椿山「渡辺華山像」(部分) 嘉永6(1853)年 当館蔵



「渡辺小華肖像写真」



椿二山「野口幽谷之像画稿」(部分) 明治時代 当館蔵